

2017

Vol.30

5月10日

花水木

ハナミズキ

Kawaguchi Municipal
Medical Center



特集

心臓外科新設にあたって

p ② ~ p ③

目次

- p ④ 病院の取り組み：院内改善活動報告会
- p ⑤ 部署紹介：管理課
- p ⑥ 高度医療の提供を目指して
- p ⑥ 院長就任にあたって
- p ⑦ 医師の交代のおしらせ
- p ⑧ 四季の移ろい：あじさいの魅力
- p ⑧ ミニギャラリー3ヵ月

川口市立医療センター
イメージキャラクター
「みみたース」



基本理念

市民に信頼され、安全で質の高い医療を提供します

心臓外科新設にあたって

心臓外科部長 大場 正直

心臓外科新設にあたり4月に赴任しました。これまでは千葉県循環器病センター、湘南鎌倉総合病院、町田市民病院および高知大学医学部附属病院で働いてまいりました。埼玉県で医療に携わるのは今回が初めてとなります。従って、埼玉県に関して土地勘がないので、まずどのような地域なのかを把握するところから始めていこうと考えています。



川口市、蕨市および戸田市でおおよそ80万人の人口を有し、この地域には心臓外科施設が少なかったと聞いています。そこに新設されるわけですからこれらの都市における循環器疾患治療を担っていくことを期待されており、非常に重要な責務を負っていると身の引き締まる思いです。早く期待に沿えるようにチームを成熟させたいという思いの一方で、今まで一緒に働いたことのないスタッフが集まり一からチームを作ることになるので、まずは焦らずに意思の疎通を図りながら同じ方向に進んでいけるようにしなければいけないとも考えています。心臓外科の手術は外科医、麻酔科医、臨床工学技士および看護師の連携がうまくいかなければ成立しません。また入院から退院までのことを考えると、循環器科医、リハビリテーション技師、看護師や各事務の方々との密接な連携がなければ治療は前に進まず、良い医療を提供することはできません。そのため時間をかけてでも相互理解を深めるまでは焦って事を進めようとは考えていません。とにかく安全第一と考えています。

今回の心臓外科立ち上げにあたって、日本大学心臓血管外科学分野・田中正史主任教授の全面的なバックアップをいただいております。田中教授は、将来的には川口市立医療センター、日本大学医学部附属板橋病院および日本大学病院の3つでそれぞれに特徴を出し、これらで連携した医療を行いたいという目標を持っておられます。そのようになれば各病院にも大きなメリットがあると思われます。そのレベルに達するまでにはまだまだ時間を要しますが、その目標を達すべく、まずは川口市立医療センター心臓外科が立ち上がり軌道に乗るように目の前の問題を一つ一つ着実に解決していこうと考えています。

開設準備のために医療スタッフには日本大学医学部附属板橋病院や自治医大さいたま医療セン

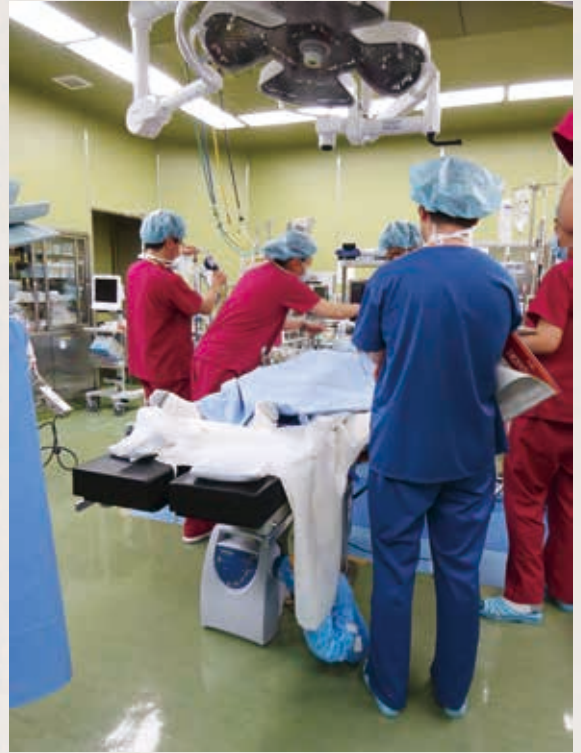
ターに研修に行ってもらっております。

心臓疾患には大きく分けると虚血性心疾患、弁膜症、大血管に分けられます。

虚血性心疾患の場合は、循環器科とも相談の上でカテーテル治療（PCI）を行うか、冠動脈バイパス術（CABG）を行うかを決めていきます。冠動脈バイパス術では内胸動脈や大伏在静脈等を代替りの血管として使用しバイパスを行います。人工心肺を使用するかどうかは状態に応じて決めます。

弁膜症に関しては弁置換術および弁形成術等を行います。弁置換術では機械弁や生体弁を使用しますが、どちらを使用するかは年齢や患者背景によって決めていきます。弁形成術は主に僧帽弁閉鎖不全症に対して行います。自己弁を温存できるため術後の心機能低下も最小限で済みますし、抗凝固剤の投与も最小限で済む利点があります。

大血管に関しては大動脈瘤や急性大動脈解離が適応疾患となりますが、どちらも低体温下で行い循環停止および脳分離体外循環といった特殊な回路を必要とします。急性大動脈解離は緊急手術を要し、手術までの時間が生命予後を左右することもあります。



シミュレーションの様子



最初のうちは、全ての症例に対応できるわけではありませんが、チームを少しずつ成熟させてあらゆる症例に対応できるようにしていきたいと考えています。

スタッフ一同早く成長できるよう尽力してまいりますのでよろしくお願いいたします。

院内改善活動報告会（TQM 発表会）

診療局長 坂田 一美

平成19年から行ってきました改善活動報告会（TQM発表会）も今年度で10回目となりました。さまざまな改善を行ってまいりましたが、今年度からは「だれでもどこでもいつでも」改善が行えるようにという思いを込めて、やり方を変更しました。中堅の職員を中心に改善のやり方を研修しつつ、同時に自部署の小改善を行うことにしました。今年度は30名の職員が活動しました。（5月に研修を実施し、その後、非常に多岐にわたるテーマで活動が行われましたが、）そのなかから5組が代表として報告会で発表しました。その概要をここで紹介いたします。

テーマ1：「スペース確保と業務効率化」

総合相談室においては連携先施設や病院の多数のパンフレットや資料が存在しています。保管場所も大変です。そこでそれらの資料をデジタル化して、院内どこでもだれでも見ることができるようにして、かつ、スペースの再活用が図れました。

テーマ2：「退院指導の標準化」

出産後のお母さんたちへの指導のためのビデオを作成し、それを用いて退院時の指導を行うようにしました。それまでは退院後に質問の電話がかかってきていましたが、それがなくなりました。言葉での説明よりも理解してもらえたようです。

テーマ3：「危険なゴミを適切に廃棄」

病棟における医療機材（注射器や点滴のチューブなど）を捨てる際に分別がきちんとできておらず、危ない状態がありました。そこで間違えて捨てられるもので何が多いのかを調査し、間違えな

いように注意喚起のポスターを作成、医師への指導、捨てる場所の見直しなどを行いました。結果として間違いは9割減少しました。

テーマ4：「業務の効率化」

医事課においては、業務ごとに担当者が決まっており、人によって時間外業務が非常に多いことがありました。そこで業務マニュアルを整備することでどの職員でもどの業務をもサポートできる体制を作り、時間外業務を削減しました。

テーマ5：「無駄をなくそう」

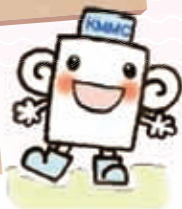
手術に用いる手袋やガウンが使用しないまま廃棄になるものが多いのが気になっていました。廃棄になる一番の理由は手術担当者にあわせて開封し準備しておくのですが、緊急対応などで手術担当者が直前に変更になった場合、サイズが合わないため使用しないまま廃棄されていたのです。そこで、担当者が実際に手術室に来るまで手袋やガウンは用意せず、到着した段階ですぐに対応できるように変更しました。その結果、廃棄は減少しました。

今後もさまざまな改善を積み重ねてより良い仕事場にしていきたいと思います。



管 理 課

部署紹介



病院は生き物です。

ボイラーは化石燃料を燃やし、院内にエネルギーを供給し続けています。温風や冷風、上下水を通す管は院内の細部にまで張り巡らされています。病棟や外来に様々な物品を供給する院内流通も活発です。

その病院を健康な状態に保っているのが管理課です。管理課には、パートを含めて13人の職員がいます。しかし、管理課の守備範囲で働くスタッフはこれだけではありません。ボイラーを運転し、院内の冷暖房や電気設備を集中的に管理している中央監視室では16人のスタッフが働いています。病院本館と立体駐車場の延べ床面積の合計が46,782㎡と東京ドームの約1.1倍という膨大な面積の清掃には37人が携わっています。24時間体制で病院を守る警備員は11人です。立体駐車場は4人で管理しています。様々な物品を院内に運ぶ搬送業務には9人が携わっています。7,000種類以上の診療材料（注射器や針、糸、カテーテル、インプラント等、診療行為に必要な材料）や消耗品を病棟や外来、手術室等に供給するSPDには9人のスタッフがいます。合計99人ものスタッフが管理課の守備範囲で働いていることになります。

病院で働いている人でまず思い浮かべるのが医師や看護師ではないでしょうか？他に薬剤師や臨

床検査技師、歯科衛生士、放射線技師等の医療技術者を思い浮かべる方もいらっしゃると思います。さらに、事務職でイメージされるのが、受付や会計等のいわゆる医療事務に携わる職員だと思います。

病院では、様々な職種のスタッフが連携して一人の患者さんの治療やケアに当たっています。

管理課は患者さんの治療やケアに関わる代わりに、現場のスタッフが日々の業務に集中出来るよう、建物を安全で清潔で快適な状態に保ち、様々な備品のケアをし、現場で必要な物品の供給を行っています。

病院は患者さんが中心です。すると、チーム医療を行う医療スタッフ等が患者さんの周りに存在することになります。さらにその外側でチームを支えているのが管理課だと捉えることが出来ます。

管理課は医療行為や医事業務に直接携わることはありませんが、大木を支える根っこのように医療センターを地下で支えています。いつも当たり前のように動く器械、暑さや寒さから守る空調、院内を清潔に保つ清掃、どの一つが欠けても医療センターにとっては一大事です。決して目立たない存在ですが、この病院を地下から支えている人達がいることを心の隅に留めていただけると幸いです。

高度医療の提供を 目指して

病院事業管理者
大塚 正彦



川口市立医療センターは平成6年に開設以来23年が経過しました。この間「市民に信頼され、安全で質の高い医療を提供します」の基本理念のもと、地域の基幹病院としての役割を果たしてまいりました。

当センターは高度急性期機能を持つ病院として、県内に8か所しかない「救命救急センター」に指定され、「埼玉県基幹災害拠点病院」としての使命もあります。また「地域周産期母子医療センター」の指定も受けており、24時間母体搬送を受けることができる体制を整えております。そして小児を扱う常勤医を20名以上擁し、充実した小児医療を提供しています。さらに「地域がん診療連携拠点病院」の指定のもと、各分野でのがん診療および緩和医療も積極的に行っています。

また、重症外傷への対応はもとより超急性期医療である脳血管疾患に対しては救命センターおよび脳神経外科等で迅速な対応を行っています。同じく緊急性の高い循環器疾患に対しても高度な医療を提供して参りましたが、この4月からは新たに心臓外科がスタートし、心臓・大血管疾患の外科治療も可能となります。

さらに周産期医療に関して全国的に産婦人科医の不足により、危機的な状況が続いていますが、当院ではこの4月から産婦人科医が増員となり、NICUと共に今まで以上に周産期医療の充実を図って参ります。

医療機器に関しても最新のものを導入しており、4月から放射線治療はIMRTという方式を導入し、正常組織への影響を最小限にできるようになりました。また診断面では最新のCT、マンモグラフィ等の導入を予定しています。

今後とも当センターが地域医療にさらに貢献できるように努め、患者さんに安全で質の高い医療を提供し、職員にとっては働き甲斐のある職場環境を整備して参りたいと存じておりますので、皆様のご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

院長就任に あたって

院長
國本 聡



平成29年4月1日付で川口市立医療センター院長を拝命いたしました國本 聡と申します。就任にあたり一言ご挨拶をさせていただきます。

当センターは「市民に信頼され、安全で質の高い医療を提供します」の基本理念のもと、埼玉県南部地域の基幹病院として専門性のある最新の医療を提供しております。そして、この4月より高度医療を担う急性期病院として市民の皆様のニーズに応えるため新たに心臓外科が開設されます。この高い医療水準を支えるのは一人一人の職員であり、院内研修の充実と職場環境の改善によって医療の質を向上させ、多職種間のチーム医療の確立を図ることが重要であると考えております。さらに当センターは臨床研修指定病院として卒後臨床研修評価機構の認定を受け、初期臨床研修の他、看護学生、薬学部学生、栄養科学学生、救急救命士等の研修にも力を入れております。これらの教育体制を充実させ地域に必要な人材の確保・育成を進めることにより、安全で質の高い医療を継続して提供できる体制が構築できるものと考えております。

近年、医療の現場においても機能の集中と役割分担が求められており、救急医療の充実、がん診療連携拠点病院・基幹災害拠点病院としての機能の強化、地域医療支援病院承認に向けて職員一同で取り組んでいきたいと思っております。

今後も川口市立医療センターが市民の皆様に信頼され地域医療に貢献できるように努力して参りますので、皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。

プラン策定しました

川口市立医療センターでは、地域の基幹病院としてより良質な医療を提供できるよう、「川口市立医療センター経営改革プラン2017-2020（案）」を策定しました。「地域医療構想を踏まえた役割の明確化」、「経営の効率化」、「再編・ネットワーク化」、「経営形態の見直し」の4つの視点に立ち、公立病院の役割や経営の効率化に係る具体的な取組のほか、医療機能等の指標に係る数値目標及び経営指標に係る数値目標を設定しています。

内容はホームページでご覧いただけます。

川口市立医療センター経営改革プラン [276KB]/PDF
http://kawaguchi-mm.org/info/misc/entry_2304/



医師の交代のお知らせ

新 任



コニシ ヒロタカ
小西 啓貴
4月1日付
消化器内科 医師



ハットリ ダイキ
服部 大樹
4月1日付
血液内科 医師



ウキチ リカ
浮地里佳子
4月1日付
糖尿病内分泌内科 医師



サワキ チエ
澤木 千絵
4月1日付
糖尿病内分泌内科 医師



マルタ チヒロ
丸田 千尋
4月1日付
糖尿病内分泌内科 医師



イイダ コレヒト
飯田 維人
4月1日付
循環器科 医師



クラノブ ダイ
倉信 大
4月1日付
小児科 医長



クロカミ ツネヒコ
黒神 経彦
4月1日付
小児科 医長



アリジ ショウヘイ
有路 将平
4月1日付
小児科 医師



ミヤカワ ユウイチ
宮川 雄一
4月1日付
小児科 医師



オオサカ ケイ
大阪 溪
4月1日付
小児科 医師



タカイ シオリ
高井 詩織
4月1日付
小児科 医師



アオキ ヒロキ
青木 宏之
4月1日付
脳神経外科 医師



ムラナカ ヒデユキ
村中 秀行
4月1日付
整形外科 医長



ミヤカタ ヒロキ
宮方 啓行
4月1日付
整形外科 医長



タケサコ ヒサタカ
竹迫 久享
4月1日付
整形外科 医師



イワマ ゲンキ
岩間 彦樹
4月1日付
整形外科 医師



ササキ ユミコ
佐々木友美子
4月1日付
形成外科 医師



オオバ マサオ
大場 正直
4月1日付
心臓外科 部長



コニシ アキコ
小西 晶子
4月1日付
産婦人科 医師



タナカ マサヤ
田中 昌哉
4月1日付
産婦人科 医師



ショウジ カノコ
庄司果野子
4月1日付
産婦人科 医師



カネ コウイチロウ
金子祐一郎
4月1日付
眼科 医師



シクイシ タカシ
栗石 崇
4月1日付
放射線科 医長



サトウ マサル
佐藤 優
4月1日付
麻酔科 医長



ミヤハラ ヒロキ
宮原 宏幸
4月1日付
新生児集中治療科 医師



イラハラ タカユキ
奇原 隆之
4月1日付
救命救急センター 医長

退 任

賀屋 仁
3月31日付
院長

渡邊 成
3月31日付
内科 部長

瓜生 英樹
3月31日付
血液内科 医師

細羽 梨花
3月31日付
血液内科 医師

平田 明史
3月31日付
呼吸器内科 医師

永井 洋介
3月31日付
糖尿病内分泌内科 医師

松谷 大輔
3月31日付
糖尿病内分泌内科 医師

須藤 晃正
3月31日付
循環器科 医長

高澤 啓
3月31日付
小児科 医長

松田 希
3月31日付
小児科 医師

真保 麻美
3月31日付
小児科 医師

佐藤 薫
3月31日付
小児科 医師

根岸 弘
3月31日付
脳神経外科 医師

中橋 昌弘
3月31日付
整形外科 医長

角野 隆信
3月31日付
整形外科 医長

谷口 慎一
3月31日付
整形外科 医師

石川 昂央
3月31日付
形成外科 医師

深井 博
3月31日付
産婦人科 部長

赤池さやか
3月31日付
眼科 医師

四手井綱則
3月31日付
新生児集中治療科 医師

田村友美恵
3月31日付
新生児集中治療科 医師

中島 靖浩
3月31日付
救命救急センター 医長

細井康太郎
3月31日付
救命救急センター 医師

睦好 祐子
3月31日付
救命救急センター 医師

四季の移ろい

あじさいの魅力

春から初夏にかけては、桃・沈丁花・雪柳・桜・花水木・バラなど、週単位に花々の様子が変化してきます。気候の良さも伴い、あたりの華やかさに、自然と明るい気持ちになります。小さい頃から、花好きだった祖母の影響で、植物に慣れ親しんできました。しかし、子供心に、紫陽花だけは、嫌いな梅雨の時期に咲く地味な花という印象で、好きになれませんでした。大人になってから、知人のローズガーデンを訪れた時、一緒に咲いていた沢山の種類の紫陽花の可憐さに魅了されました。子供の頃の紫陽花は、「ガクアジサイ」や「てまり」が主でしたが、今は逆輸入や品種改良された「洋種」など種類も豊富にあります。結婚式などに活躍する紫陽花とは品種が違うスイカズラ科のアナ



ベルなども、多く出回っています。紫陽花は、花期も長く、生育が容易で、地植え・コンテナ栽培・切り花・ドライフラワーなど幅広く楽しめます。

近くで見る小さな沢山の花も可愛いですが、長谷寺のように傾斜地に群生した紫陽花も圧巻です。皆さんも、庭先、道端、花屋等の紫陽花に目を留めてみませんか。その可愛らしさにきっと癒されると思います。医療センターの屋上庭園できれいに咲き誇ります。ぜひお立ち寄り下さい。

(か)

ミニギャラリー3ヵ月

「石橋博子展～愛おしい生き物たちと風景と～」では、猫を中心とした可愛らしく愛嬌たっぷりの動物たちの作品でした。何気ない風景に生き物を描き加えるだけで、ストーリーが生まれ、温もりが感じられました。

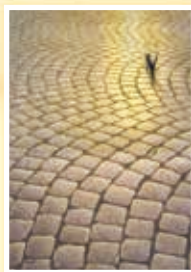
「つまみ絵展」は、シルクの布とピンセットを用いて、花や動物、雛人形などが立体的に描かれ、作品をじっくり覗き込むように眺めている方が多くいました。

「斉藤貴聖 JEEP島写真展～青に染まる～」では、美しい海に空、夕焼けや星空など、色彩豊かで圧倒的な迫力ある写真に、いつかあの海に行ってみたいと心を掻き立てられる作品でした。

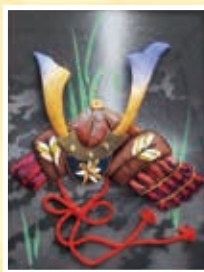
「どの作品もそれぞれの作家の思いが伝わり、温かな気持ちになりました。」という感想がよせられています。

なお、ミニギャラリーの展示内容は医療センターHPでもご覧いただけます。

◆「石橋博子展～愛おしい生き物たちと風景と～」(2月)◆



◆「つまみ絵展」(3月)◆



◆「斉藤貴聖 JEEP島写真展～青に染まる～」(4月)◆



編集後記

新年度となり、新しい環境に飛び込んで頑張っているかたもいらっしゃると思います。

心地よい風が吹く季節となりましたので、一度リラックスする時間を設けてみるのはいかがでしょうか。

当センターをより知っていただく機会を提供する広報紙となりますよう、これからも努力してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

発行責任者 川口市立医療センター 大塚 正彦
編集 広報委員会

〒333-0833 川口市西新井宿180

☎048-287-2525(代表)

HP <http://kawaguchi-mmc.org>